

【2017年5月20日発行】

THE JAPAN SOCIETY FOR INTERCULTURAL STUDIES
日本国際文化学会ニューズレター36号

<http://jsics.org/>

日本国際文化学会事務局

多摩大学

グローバルスタディーズ学部事務室内

〒252-0805

神奈川県藤沢市円行802番地

Tel: 0466-82-4141

Fax: 0466-82-5070

email: jsics@gr.tama.ac.jp

2020年に向けて—学会設立20周年への橋渡し—

日本国際文化学会会長 岩野 雅子



会員みなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この4月より、小林文生前会長のあとを引き継ぐことになりました岩野雅子です。歴代会長のお力とお人柄の厚みに支えられつつ、次の時代に向けて、これまでの学会活動の成果を確実にバトンタッチできるよう、橋渡しの役割を務めたいと存じます。

学会の歴代会長ならびに事務局については学会ホームページに掲載しております。ぜひ機会を見てご覧いただき、これまでの歴代会長の重みをお感じいただければと存じます。

学会の新たな体制についてご紹介いたします。副会長には、冷静なご判断をいただける馬場孝常任理事に引き続きご就任いただくとともに、学会を熱い思いで支え続けてくださった木原誠常任理事に新たに就任いただきました。岡真理子前副会長には、数多くの学生から申請があり、大変な作業が伴う文化交流創成コーディネーターの資格審査委員会委員長を継続してお引き受けいただけることになりました。全国から学生の集まる短期集中セミナーをはじめとし、文化交流創成コーディネーター運営に関する事務局につきましても、引き続き松居竜吾常任理事が牽引してくださいませ。おかげさまで、年報『インターカルチュラル』への論文投稿が大きく増え、査読をはじめとする内容の企画編集作業も膨大になってきております。こちらも引き続き若林一平顧問が編集長をさせていただきます。新役員・委員一覧につきましては、年報第15号および学会ホームページに掲載しております。学会活動を支えてくださっている顧問、常任理事、理事、ならびに会員関係者の方々に心から御礼申し上げます。

学会事務局につきましても、4月1日より、山口県立大学国際文化学部内から、多摩大学グローバルスタディーズ学部事務局内に移転いたしました。3月末には多摩大学において引継ぎの会議をもち、安田震一事務局長をはじめ、幹事の方々、また、学会事務全般やホームページ、メール、ニューズレター等々のさまざまな役割分担をお引き受けいただける

みなさまと意見交換をいたしました。

さて、国内外でめまぐるしく変化する厳しい状況に心を痛めながらも、身の回りでは平穏で穏やかな春を迎えております。特に、4月8日(土)に宮崎公立大学で開催した本年度第1回目の常任理事会には、顧問、常任理事、学会事務局、文化交流創成コーディネーター短期集中セミナーや全国大会実行委員会などから16名の出席者があり、宮崎の桜と春の花々に加えてブーゲンビリアが美しい彩りを添える中で、新たな体制の船出をすることができました。

第16回全国大会については倉真一実行委員長の挨拶をご覧いただき、ぜひ多くの会員の方々、一般の方々のご参加をいただきたくお願い申し上げます。第16回大会テーマ「＜2020年＞の越え方—時代を跨ぐ・地域を繋ぐ・文化を紡ぐ」のもとでは、シンポジウムやフォーラム、共通論題や自由論題等を通して様々なトピックや視点からこの大きなテーマを見て参りますが、＜2020年の越え方＞はまた、本学会自身の課題でもあることをお考えいただく機会になればと願っております。

また、文化交流創成コーディネーター短期集中セミナーは、これまで2年間開催してきた京都から、菅野敦志常任理事のご尽力により沖縄に変わります。大学、学部や専攻、学年や世代、地域や国といった枠組みを超えて交流するなかで自己の価値観や世界観を打ち破り、国際文化学関連領域に身を置く自己の新たな方向性や未来への視点を獲得する場として成熟しつつあります。

会員みなさまには、ご多忙を極める日々の業務のなか、着実に教育研究活動に取り組み、成果を上げておられることと存じますが、ぜひ、他の会員のことも知り、その間(inter)をつないだ時に何か生まれたいだろうかというご関心をおもちいただき、本学会へのご支援、ご協力、ご参画をお願い申し上げます。

なお、第15回全国大会公開シンポジウム『戦争と融和における文化の役割—国際関係史から学ぶ』の抜き刷りを、新会員にお誘いいただくときに本学会を紹介する資料としてお使いいただけます。7月の第16回全国大会でもご案内いたしますが、お近くに本会にお誘いいただける方がおられましたら、学会事務局までご一報くださいます様、重ねてお願い申し上げます。

2017年度 第16回全国大会

「<2020年>の越え方——時代を跨ぐ・地域を繋ぐ・文化を紡ぐ」

へのお誘い

第16回全国大会実行委員長 倉真一



会員の皆様、今回は日本国際文化学会第16回全国大会を宮崎公立大学にて開催させていただくことになりました。宮崎公立大学は1993年に開学した1学部1学部(人文学部国際文化学科)、在学生数900人強の比較的小規模な地方の公立大学です。南国宮崎の日差しを受けた緑豊かなキャンパスでの学びは、開学以来、ゼミを中心とした少人数教育とリベラルアーツ教育を核に、国際化やグローバル化に対応した新しい教養人の養成を目指してきました。今回、奇しくも学科名と同じ「国際文化学」を冠する本学会の全国大会開催校として選ばれたことを心から光栄に、そして九州・宮崎の地に会員の皆様をお迎えできることを本当に嬉しく思います。

振り返れば私が日本国際文化学会に入会したのは、ちょうど3年前のことでした。当時の私は大学での教育や研究などで、先行きがあるのかないのかも見えない閉塞感を感じていたのだと思います。そんな折り、たまたまネットで「文化交流創成コーディネーター」の文字が飛び込んできて、強く惹かれる何かを感じた私は、ICCO資格認定制度をスタートさせようとしていた山口県立大学での全国大会に、非会員ながら参加してみることにしたのでした。

この時の直感はずぐには自分のなかで言語化できませんでしたが、いまはっきりと言えるのは「直感は間違っていなかった」ということです。それは岩野会長も言われるように、間(inter)をつないだ時にうまれる「何か」への期待や希望だったのだと思います。今大会のテーマにある「時代を跨ぐ・地域を繋ぐ・文化を紡ぐ」は、時間と空間という2つの軸上のあちこちで、間(inter)を結びつけながら文化という「何か」をいわば縦糸と横糸のように紡ぎだす実践をイメージしています。

メインタイトルを「<2020>年の越え方」とした理由には、この年が1964年の東京オリンピックの再来として希望や再生の象徴として語られる一方で、先行きのみえない不安や閉塞感も広がっているという現状があります。そこからいま考えるべきは2020年の越え方なのではなく、むしろ「越え方」なのではないか。「越え方」を考えるには、1964年とは違う形で2020年と別の時代を「跨いで」みる必要があるのではないかと考えました。

シンポジウムのテーマを「<1940年>を起点に考える<2020年>の越え方」としたのは、違う形で「時代を

跨ぐ」のに、1940年と2020年の間(inter)を架橋してみてはどうか、という一つの提案です。1940年は最初の東京オリンピックが開催されるはずの年でした。再来という意味では、1964年の東京オリンピックこそ、総力戦に時代が向かうなかで一度は幻となった1940年のその戦後における再来だったわけです。これは戦後の高度経済成長が、「1940年体制」とも呼ばれる総力戦体制の戦後における完成版であったこととパラレルです。そのような再来のまた再来として2020年を迎えるのではなく、シンポジウムでは1940年を起点とした総力戦体制が敗戦によって一度挫折した時代に焦点をあて2020年の越え方を再考してみます。

基調講演には『紀元2600年—消費と観光のナショナリズム』、『国民の天皇—戦後日本の民主主義と天皇制』の著作で知られるケネス・ルオフ先生(ポートランド州立大学教授)に、1940年と2020年の間をツーリズムを一つの視点として結びつけるご講演をお願いしています。またパネリストとして、乗松優先生(関東学院大学兼任講師)と渡邊英理先生(静岡大学准教授)の両先生をお迎えし、1940年から1950・60年代にかけて国境や地域を越えて生きた人々の諸実践をトピックに、「2020年の越え方」を考えるヒントをいただこうと思います。昨年『ボクシングと大東亜—東洋選手権と戦後アジア外交』を上梓された乗松先生からは戦後スポーツ特にボクシングと東洋選手権について、渡邊先生からは宮崎の沖縄奄美タウンである波島について、それぞれフォーカスされたお話をいただく予定となっています。

今大会では会員の皆様より、自由論題が24報告で7セッション、共通論題が6セッションと数多くのご報告が予定されています。大会実行委員会よりあらためてお礼申し上げます。またフォーラムでは、「諸外国における『インターカルチュラル』へのアプローチ」をテーマに、「国際文化学」のグローバルな現在地と今後の展望について、理論と実践の両面からの活発な議論が期待されます。自由論題、共通論題ともに、多様な専門分野の会員諸氏が多様な時代、多様な国や地域、多様な文化や人々の実践をとりあげています。このこと自体が日本国際文化学会の魅力なのだと思います。そして7月の全国大会が、専門分野や時代を「跨ぎ」、異なった国や地域、大学を「繋ぎ」、2020年の越えていく新しい知見や文化、実践を「紡いで」いく契機となるよう、大会実行委員会一同、岩野会長、安田事務局長をはじめ会員の皆様からのご助言とご協力を得て、準備を進めてまいる所存です。それでは宮崎の地に参集される皆さんと、お会いできる日を楽しみにしております。

7月7日(金) エクスカーション「平和の塔」見学ツアー(有料、事前申し込み)

| 時間 | プログラム | | 場所 |
|-----------------|----------|--|-------|
| 15:30 | 集合① | 宮崎空港到着口の前に 15:30 までに集合 | 宮崎空港 |
| 16:00 | 集合② | 宮崎公立大学正門前に 16:00 までに集合 | 公立大 |
| 16:30~ 17:30 | 「平和の塔」見学 | 「八紘之基柱」として 1940 年に建てられ、戦後は「平和の塔」となったモニュメントとその内部を見学 | 平和台公園 |
| 18:30 | 解散 | 解散後、宮崎市中心部の宿泊先へ送迎も可能 | 公立大 |

7月8日(土) 自由論題、常任理事会・理事会、共通課題、公開シンポジウム、情報交換会

| 時間 | プログラム | | 場所 |
|-----------------|--|---|--------------|
| 9:00~ | 受付 | | 食堂前 |
| 10:00~ 12:00 | 自由論題 A | メディアと想像の共同体の現在・過去・未来 司会:齋川 貴嗣(高崎経済大学講師) 報告者:目黒 志帆美、中川 拓哉、白石 さや | 101 大講義室 |
| | 自由論題 B | グローバル化のなかのツーリズムとメディア イベント 司会:加藤 恵美(早稲田大学非常勤講師) 報告者:中村 幸子、坂口 可奈、瀬川 澄佳 | 102 大講義室 |
| | 自由論題 C | 植民地主義と東アジア世界 司会:山脇 千賀子(文教大学教授) 報告者:照屋 理、菅野 敦志、崔 紗華、大和 裕美子 | 103 大講義室 |
| 12:00~ | 昼食・お弁当引渡し 13:30 まで | | 食堂前 |
| 12:10~ 13:20 | 常任理事会・理事会 | | 視聴覚室 (4階) |
| 13:30~ 15:00 | 共通論題① | 相原 征代(岐阜大学男女共同参画推進室特任助教)ほか4名 「結婚をめぐる生きづらさ」を『生きづらさ学』的に分析してみる ―生きづらさ学における「評価モデル」確立の試み― | 101 大講義室 |
| | 共通論題② | 高光 佳絵(千葉大学国際教養学部准教授)ほか2名 日米知的交流における戦前・戦後の断続 | 102 大講義室 |
| | 共通論題③ | 井竿 富雄(山口県立大学国際文化学部教授)ほか3名 故郷を求めて・故郷を世界へ―近代台湾と日本・日本人― | 103 大講義室 |
| 15:15~ 17:30 | 公開シンポジウム 基調講演 パネル・ ディスカッション | <1940年>を起点に考える<2020年>の越え方 ケネス ルオフ(ポートランド州立大学教授) 「宮崎、日本、アジア大陸:1940年と2020年」(仮題) パネリスト:ケネス ルオフ 乗松 優(関東学院大学兼任講師) 「ボクシング東洋選手権と未完のプロジェクトとしての『帝国日本』」 渡邊 英理(静岡大学准教授) 「宮崎の沖縄奄美タウン、波島と公共性」 討論者:若林 一平(文教大学名誉教授) 司 会:倉 真一(宮崎公立大学准教授) | 講堂 |
| 17:45~ | 情報交換会会場への送迎(無料) | | 講堂前 |
| 18:30~ | 情報交換会 (~20:00) | | ホテルメリージュ |

7月9日(日)自由論題II、総会その他、フォーラム、共通論題II

| 時間 | プログラム | | 場所 |
|-----------------|-----------------------|---|-------------|
| 8:00～ | 受付 | | 食堂前 |
| 9:00～ 11:00 | 自由論題 D | 国際主義と人道主義 司 会:萩原 稔(大東文化大学准教授) 報告者:山内 晴子、メスロピャン メリネ、鈴木 裕輔、 小阪 裕城 | 101 大講義室 |
| | 自由論題 E | 海の境界と越境が生み出す社会 司 会:上原 良子(フェリス女学院大学教授) 報告者:天野 尚樹、花松 泰倫、吉川 純恵 | 102 大講義室 |
| | 自由論題 F | 国際文化研究とナショナリズムへの視座 司 会:川村 陶子(成蹊大学教授) 報告者:葉柳 和則、半田 幸子、馬場 孝、大形 利之 | 103 大講義室 |
| | 自由論題 G | 民衆の生活世界とNPO 司 会:牧田 東一(桜美林大学教授) 報告者:田中 佑実、井出 晃憲、秋保 さやか | 201 中講義室 |
| 11:00 | 昼食・お弁当引渡し(～13:30 まで) | | 食堂前 |
| 11:10～ 12:50 | 総会ほか | 総会 第7回平野健一郎賞表彰式、 文化交流創成コーディネーター資格表彰 合格証授与、ベスト・プレゼン賞学生発表 | 103 大講義室 |
| 13:00～ 14:30 | フォーラム | 「諸外国における『インターカルチュラル』へのアプローチ ——加・英・独・ユネスコにみる理論と実践からの示唆」 報告者:飯笹 佐代子(青山学院大学) 渡辺 愛子(早稲田大学) 川村 陶子(成蹊大学) 坂井 一成(神戸大学) モデレーター:岡 眞理子(帝京大学) | 103 大講義室 |
| 14:45～ 16:15 | 共通論題④ | 高橋 梓(近畿大学特任講師)ほか3名 「国」を意識するとき—文化的越境性から考える伝統、民族、経済— | 101 大講義室 |
| | 共通論題⑤ | 梅津 顕一郎(宮崎公立大学人文学部准教授)ほか2名 地域社会からみた「2020年」の越え方—ジェンダー・地方分権・オリンピック— | 102 大講義室 |
| | 共通論題⑥ | 斉藤 理(山口県立大学教授)ほか3名 国際文化学の視点から考えるグローバル人材育成の新たな方法論 | 103 大講義室 |
| 16:30 | JR 宮崎駅および宮崎空港への送迎(無料) | | 管理棟前 |

●大会会場

宮崎公立大学
〒880-8520 宮崎市船塚1-1-2

●交通アクセス:

<http://www.miyazaki-mu.ac.jp/university/access.html>

* JR宮崎空港駅からJR宮崎駅の区間は、特急自由席も普通運賃のみで利用可能です。また同区間のJR線および宮崎交通のバス路線(高速バスを除く)では、スイカなどの交通系ICカードがご利用可能です。

* 土日とくに日曜日は、JR宮崎駅から宮崎公立大学方面へ向かう直行のバス便がありません。直行のバスの便がない場合、宮崎駅から徒歩またはタクシーをご利用になるか、メインストリートの橘通り方面にバスか徒歩で移動のうえ、橘通り沿いのバス停から「(原町経由)文化公園」行き(「公立大学前」で下車)、「平和台」行き(「花殿町」で下車)、「宮崎神宮」行き/経由(「江平1丁目」で下車)にお乗換え下さい。

●キャンパスマップ:

<http://www.miyazaki-mu.ac.jp/university/campusinfo.html>

●エクスカージョン 「平和の塔」見学ツアー)のご案内

* 7月7日(金)午後、下記のエクスカージョンを催行いたします。

7月7日(金) 15:30~18:30
参加費(おひとり) 1,500円

* 集合場所:

- 集合① 宮崎空港到着口前に15:30までに
- 集合② 宮崎公立大学正門に16:00までに

* 集合後、ジャンボタクシーにて県立平和台公園へ移動、「平和の塔」を見学します。普段は見ることのできない塔の内部も見学いただけます。見学終了後は、市内の波島を経由して宮崎公立大学に戻り解散。ご希望の方には市内中心部の宿泊先までお送りできます。

* エクスカージョンへの参加申し込みおよび参加費のお振込みは、大会参加申し込みと大会参加費等のお振込みとご一緒に、6月23日(金)までをお願いいたします。

* 「平和の塔」は1940年に紀元2600年奉祝事業の一環として建設された「八紘之基柱」の戦後の呼称。「平和の塔」見学後の帰路に通る波島は、宮崎市にある沖縄・奄美タウン。いずれも大会シンポジウムのテーマ・発表内容に関連した場所になります。

●大会参加費

| | | |
|-------|--------|------------|
| 一般会員 | 2,000円 | (当日2,500円) |
| 一般非会員 | 3,000円 | (当日3,500円) |
| 院生・学生 | 1,000円 | (当日1,500円) |

| | | |
|--------|-------|--------|
| 情報交換会: | 一般 | 5,000円 |
| | 院生・学生 | 2,500円 |

お弁当代(お茶つき):

【7月8日(土)】1,000円 【7月9日(日)】1,000円

* 当日は学生食堂は営業しておりません。また大学周辺には飲食店が少ないため、お弁当のご予約をお勧めします。

エクスカージョン参加費:【7月7日(金)】1,500円

●大会参加申し込みと振込先

* 参加の申し込みは前回大会に引き続き原則メールで承ります。会員の皆様には、申し込みフォームを、学会メンバーリストを通じてお送りしますので、メール本文の所定欄に書きこんでいただく形で、2017年6月23日(金)までに大会実行委員会(2017jsics@miyazaki-mu.ac.jp)宛てにご送信ください。

* なお郵送での申し込みや委任をご希望の方は、お手数ですが下記大会実行委員会宛にご郵送下さい。(非会員で参加をご希望の方には、参加申し込み方法について学会ホームページの全国大会のコーナーをご覧ください。)

〒880-8520 宮崎市船塚1-1-2
宮崎公立大学 人文学部 倉真一研究室気付
日本国際文化学会 第16回全国大会 実行委員会

* 参加にかかる費用については、6月23日(金)までに下記の全国大会用口座に振込をお願いします。振込手数料はご負担願います。

【ゆうちょ銀行(郵便局)でのお振込】

ゆうちょ総合口座 10230-273101
口座名義 安田震一(ヤスダシンイチ)

【別の銀行等の金融機関からお振込み】

銀行名:ゆうちょ銀行 支店名:〇二八店(ゼロニハチ店)
普通 0027310 ヤスダ シンイチ

* 同封の年会費用「振替用紙」は大会参加費の振込には使用できません。

* 振込後のキャンセル等は、個別に大会実行委員会にメールなどでご相談ください。

●情報交換会の会場及び会場への移動

* 7月8日(土)の情報交換会の会場は、宮崎市中心部の「ホテル メリージュ」となります。宮崎公立大学から会場までの送迎(無料)をご利用いただけます。情報交換会へ参加される方は、公開シンポジウム終了後、講堂前に17時45分までにご集合ください。

●宿泊先

* 宿泊については、各自でご予約をお願いします。情報交換会の会場となります「ホテル メリージュ」は、宮崎市のメインストリートである橋通り沿いにあり、情報交換会の終了後ご宿泊先へ戻られる際の利便性などを考えると宮崎市中心部の橋通り周辺、JR宮崎駅周辺、大淀川沿い周辺および県立宮崎病院周辺のホテルをお勧めいたします。これらのエリアのホテルは、大会会場の宮崎公立大学へもバス・タクシーで5～10分以内の範囲となります。

* スポーツイベント(トライアスロン大会)と日程が重なるため、一部のホテルでは満室も予想されます。早めのご予約をお勧めします。

●橋通り周辺

ホテルルートイン宮崎、ホテルJALシティ宮崎、東横INN宮崎中央通、エアラインホテル、アリストンホテル宮崎、ホテルメリージュ、エムズホテルクレール宮崎 ほか

●JR宮崎駅周辺

JR九州ホテル宮崎、ホテルスカイタワー、リッチモンドホテル宮崎駅前 ほか

●大淀川沿い周辺 宮崎観光ホテル ほか

●県立宮崎病院周辺 ホテルマリックス ほか

●宮崎公立大学周辺 宮崎第一ホテル ほか

●託児所利用について

* 大会期間中の7月8日(土)・9日(日)に限り、事前に大会実行委員会を通じて予約をされた参加者に、大会会場内に設ける臨時託児所のご利用が可能となります(料金は利用者負担となります)。

* 予約をご希望の方は、6月16日(金)までに、大会ご参加申し込みとは別に、メールの件名を「託児所予約希望」として、大会実行委員会の託児受付担当: 四方(shikata@miyazaki-mu.ac.jp)宛に、1)お名前 2)ご所属 3)ご連絡先 4)お預かりするお子様の人数 5)お子様のご氏名 6)お子様の性別 7)お子様の年齢 8)7月8日、9日のうちのご利用希望時間帯を明記のうえ、メールでお申込みください。折り返し確認と詳細等についてお知らせいたします。

* またご不明な点などありましたら、お気軽に上記アドレス(大会実行委員会の代表アドレスとは異なりますのでご注意ください)までご相談ください。

●7月9日(日)のJR宮崎駅及び宮崎空港への送迎(無料)

大会の全日程終了後、大会会場からJR宮崎駅および宮崎空港への無料送迎をいたします。タクシー相乗りによる無料送迎となります。送迎希望の方は午後4時30分頃より順次送迎を開始いたしますので、大学正門近くの管理棟前にお越しください。事前の申し込みは不要ですが、ご利用希望者の人数把握のため、大会受付時に無料送迎の利用希望の有無についてお尋ねします。

事務局からのお知らせ

学会事務局移転に伴う口座変更

4月1日より事務局が多摩大学グローバルスタディーズ学部に移転いたしました。これに伴い、年会費納入口座が変更致しました。

ゆうちょ銀行 振替口座
口座番号 00210-2-138408
加入者名 日本国際文化学会

尚、全国大会の参加費等の振込先は以下の通りです(5ページ参照)。

ゆうちょ銀行 総合口座
口座番号 10230-273101
加入者名 安田震一(ヤスダ シンイチ)

新事務局からのご挨拶

ニューズレター36号をお届けします。今号から日本国際文化学会の事務局が山口県立大学から多摩大学へ移転しました。常任理事会で宮崎公立大学を訪れましたが、本州から参加した方々が「宮崎は暖かくて良いですね」と話していたのに対して、沖縄から参加なさった方が「今日は寒いですね」と肩を震わせていたのが印象的でした。日本国内のダイバーシティが垣間見られたひと時でした。今年度で全国大会は16回となりますが、皆さまのご期待に恥じぬよう精進していきたいと思っております。

(日本国際文化学会事務局 大場智美)